

日本丁場見聞コラム

万成石の健太が行く No.11

(有)武田石材 (岡山市)



高橋健太

灯籠などにも数多くの転倒被害が報告されているようで、その損害はかなり大きなものになると予想されます。

去る三月十一日、「東日本大地震」が発生しました。国内観測史上最大のM9.0を記録し、死者・行方不明者合わせて二万七千人(三月三十一日現在)を超える大災害となっています。また、住居などを失った数多くの方たちが避難所生活を強いられ、不自由な日々を送っています。

石材業界では、東北・関東地方の墓地に加えて、展示品の墓石や

わせれば、この一大事を必ず乗り越えられると信じて、僕も微力ながら応援していきたいと思っています。そして一日も早い復興を心から願っています。

さて、このコラムの第一回目に少し紹介させて頂きましたが、今回は万成石について詳しく紹介したいと思います。

まず万成石にはピンク色の部分の濃淡により、厳密に区分すると七種類の色目があります。龍王石と万成石の違いについて質問されることがよくあるのですが、龍王石というのは色目が一番赤い万成石のことです。弊社では龍王石ではなく、万成石の特赤口という形で出荷しています。ちなみにどの色の石も石目はすべて同じです。

次に歴史についてですが、万成石の採掘は天保年間(一八三〇〜一八四三年)に始まったと言われ

ています。しかし当時の用途は自家用石材のみで、採石が本格的に始まったのは明治二十一年頃からと言われていました。

採石業者は昭和末期に九社十一丁場ありましたが、現在は弊社を含め二社二丁場となっています。最盛期に比べると五分の程度になっただけでした。そのため万成石はもう採掘していない」という風評が出回り、そう信じている方もたくさんいると思います。また万成石は玉石のため、大きな原石は採れないと思われている方も多数おられると思います。

しかし、丁場の状況により前後しますが、現在でも実際、弊社は月あたり三千〜五千切程度の生産能力を備えています。さらに昨年九月号の記事と本コラムでも紹介しましたが、六尺角の原石(シベリア抑留者慰霊碑)を出荷したり、



万成石は大材も採れ、10～15尺といった長尺物にも対応。写真右中は筆者と、専務の高橋信一氏



少し前には約七尺角長さ九尺（約四百五十切）の原石を出荷したりと、かなりの大材にも対応できません。当然、十～十五尺といった長尺物にも対応可能です。

また、九州地方や北陸地方でよく使われる四尺角や五尺角といった原石も常時取り揃えています。こうした状況を広く知ってもら

ため、弊社ではどんどん丁場見学に来て頂いております。そして、来て頂いたほとんどの方は、万成石のイメージをガラリと変えて帰られます。

中にはお施主さんが直接来られる場合もあります。一般の人から見ると、採石場などはあまり縁のない場所なので、実際に採掘するところを見るととても感動され、その石への思い入れが確実に強くなるようです。

石屋さんがお施主さんを連れて直接丁場を案内するのはとても良い営業方法の一つであり、どんどん実践してもらいたいと思います。そして実際に丁場で見た石でお墓が完成した時のお施主さんの感動・喜びはより大きなものになると思います。

最後に、万成丁場の立地は全国的にみても非常に珍しく、岡山市のほぼ中心部にあります。JR岡山駅から約5km、岡山インターから約3km、岡山空港から約10kmと交通の便も非常に良く、訪問しやすい丁場の一つですので、ぜひお気軽にお越し下さい。